

2023年 泉が丘中学校 学校評価 まとめ

令和6年2月
教育課程委員会

No	評価項目	評価	具体的取組と評価
1	確かな学力	B	月1回の教科相談や夏休み中の学習相談を行った。また、指導主事訪問や授業作り講座などの研修を重ね「わかる授業」づくりに取り組んだ。今後とも、これらの研修を生かし、生徒の学習状況を把握し、生徒の理解度や特徴に合わせた授業力向上をめざしていくことを継続する。
2	豊かな心	B	学年の職員全員によるローテーション道徳が定着し、「共生」の力を高めていますかの質問には、90%以上の保護者、生徒、教職員が肯定的な回答をしている。「自立」や「挑戦」の力を高めていますかの質問では、昨年度の横ばいの結果となっていることから、現状維持から向上できるように、生徒が自分で考え、行動できるような教育活動を積極的に仕掛けていけるようにする。
3	健やかな体	B	昨年度力をいれた「食育」への取り組みが継続できるものではなかったために、教職員の評価が下がった。令和8年度には完全給食が始まる予定となっていることから、継続した食育への取り組みが急務である。また、学校全体で取り組んでいる「5分間走」も暑さの影響で1年間を通した取り組みではなくなってきたことから、「5分間走」以外の年間を通しての体づくりへの取組が必要になってきたといえる。
4	地域連携	B	コロナが5類に移行したことで地域行事が復活し、中学生の参加も増えた。一方で中学生は、学校以外にも部活動や習い事があり、地域行事に参加したくてもできない状況があることも事実である。学校だよりは定期的に発行し、学校の情報を発信することができた。また、学校運営協議会では、開催回数も増えて、活発に情報交換することができた。
5	いじめへの対応	B	今年度も継続してフロア巡回や毎月の振り返りをアンケートなどで生徒の様子を把握し、いじめの未然防止に努めた。教職員の意識も高く、組織的に対応できている。しかし、例年否定的な回答をする保護者や生徒がいることもあることから、次年度も生徒理解を深めていくことが大切である。
6	自分づくり教育	B	3年間を見通した体系的なキャリア教育が3年目となった。2年生の出前職業体験はコロナ以前の各仕事場へ中学生が出向く形から、泉が丘中へ迎える形での新しいスタイルでの活動を行い成果を上げた。今後も体系的な取組を継続しつつ、学校の様々な教育活動の場でキャリア教育を推進していくこと。
7	特別支援教育	A	特別支援教室（Study ルーム）では、クロームブックを利用したオンライン授業配信で視聴したり、Web学習システムを活用したりして、支援を必要とする生徒への対応を行った。特別支援教室の運営も軌道にのっている。一方で、特別支援教室の運営が教職員の負担につながることもあり、今後は継続可能な運営方法を模索していく必要がある。
8	情報化教育	B	教科指導だけでなく、総合的な学習の時間や特別支援の取組など、校内でのICTの活用が一般的になりつつある。一方で、人数は少ないが、ローマ字入力やICTが苦手な生徒がいることもあり、支援が必要なのことが分かった。社会情勢からみてもICT機器の操作は必要不可欠といえるので、粘り強く継続した取り組みをしていきたい。
9	人材育成組織運営	A	メンター、校内授業研修などは、昨年引き続きキャリアステージにあった研修が行われている。第1・2ステージの教員の育成に向けたOJTも実施できた。働き方改革は頭打ち感もありながら、業務の精選をしたり、効率化を図ったりできた。業務量の負担感をもっている教職員は多いが、支え合って組織的に対応することができている。

